



刊行によせて

京都産業大学

副学長・教育支援研究開発センター長
大城 光正

京都産業大学教育支援研究開発センターでは、教育の質の向上に関する全学的な方針の策定及び全学の教育改善・開発の支援推進、そのための調査・分析等、広義のFDを学生・教員・職員の協働により推進しています。

特に、平成22年度以降、本学では「対話」をキーワードに、学生－教員間の対話を促進する「授業アンケート」への改変や、学生の視点を取り入れた授業・教育改善等、既存のFD活動の見直しや新たな取組に挑戦しています。本誌では、単なる事業の成果報告にとどまらず、教育の質向上に邁進するなかで、本学の学生・教員・職員のみならず、学外の関係者におかれましても議論のきっかけとなることを期待しています。



Contents

- ◆教員－学生間の対話促進
～「対話シート」を活用した授業の活性化を目指して～
- ◆学生－教員－職員間の対話促進
～学生FDスタッフ燦を中心とした「共創」風土の醸成～
- ◆学部長等－教育支援研究開発センター間の対話促進
～「学部まわり」を通じた学部のFD活動支援～
- ◆障がい学生支援に関するFD/SD
 - ・平成24年度 第1回全学FD/SD研修会報告
 - ・平成25年度 第1回全学FD/SD研修会報告
 - ・平成25年度 第3回全学FD/SD研修会のご案内
- ◆教育支援研究開発センターの今年度の活動

セラデス CERADES は、教育支援研究開発センターの英語名称
Center for Research and Development for Educational
Support の略称です。

教員－学生間の対話促進

～「対話シート」を活用した授業の活性化を目指して～

京都産業大学では、授業の活性化や改善に向けて「教員－学生間の授業に関する対話シート」（以下、「対話シート」）を、毎学期第6週目までに教員が授業で実施し、翌週、学生から寄せられた意見へのフィードバックを行って、教員と学生が授業の進め方などについて対話・調整を行う取り組みを行っています。

平成25年度春学期は、この「対話シート」の実施後に「第2回新任教員研修会」を開催し、学生との対話などについて、新任教員と先輩教員で意見の交換を行いました。

意見交換では、「対話シート」に「私語対策」の要望が多かったことも話題となり、先輩教員から「学生にフィードバックする時に、私語の問題を感じている学生がいることに触れ、互いの気遣いを促し、教員自身も大教室を巡回し緊張感を保って授業している」（文系・受講者400名クラス）など具体的なフィードバックの事例が紹介され、また、発言しづらい大人数授業では、授業用ツイッターアカウントをフォローさせ、直接質問にできれば、授業中につぶやかせるようにしているケース（理系・受講者150名）など、対話の促進に向けた取り組みについて活発に意見が交わされました。

研修終了後、参加した教員からは「フィードバックの必要性を認識した」「学生に『主体的に』学ばせる…クレーム覚悟で！」などの声が聞かれ、「対話」をキーワードとした新たな気づきが生まれています。



熱心に意見を交わす新任・先輩教員

「教員－学生間の授業に関する対話シート」とは

学生を対象とした本学の授業アンケートの一つで、原則、非常勤講師を含む全教員が、全科目を対象として、学期開始から第6週目までに実施しています。授業への理解度や興味・面白さを感じる度合い、教員の話し方・授業の進め方など教授法に関する設問のほか、自由記述欄が設けられています。アンケート実施の翌週に、教員は学生からの意見をフィードバックし、今後の授業の進め方について話し合います。このように、対話シートの主な目的は、学期当初から教員と学生の間で授業改善に向け調整を行うことにあります。学生との対話が主眼ですので、クラスの実情に応じて教員が独自に作成したシートを使用することもできます。

授業の活性化に向けて
「対話シート」がこんなふうに活用されています！

● フィードバックの方法を工夫している教員

【文系・大人数授業】

翌週の授業中にフィードバックを口頭説明すると同時に、moodleに「授業評価アンケートへの対応（学生へのフィードバック内容）」をアップロードしています。授業終了前に改善度を再チェックする予定です。

● 学生との対話を、授業運営に反映している教員

【文系・少人数授業】

学生の授業への理解度を確認する目安として「対話シート」を活用し、英語に関する学習事項の確認作業を増やしたり、確実な英語力の習得につながるように小テストの方法等を改善する契機になりました。

【文系・大人数授業】

今回、学生が興味を持っているトピックについて自由記述で意見を収集しました。学生の関心が高かったトピックについて話をする事で、学生の授業への集中度を高めたいと考えています。一部の授業で試しましたが、反応は悪くないと感じています。今後も継続して学生目線で知りたい授業内容を展開できるように努力したいと考えています。

● 「対話シート」以外にも、学生との対話をしながら授業を進めている教員

【理系・少人数授業】

毎回の授業において、学生たちに「今日のレポート」を書いていただき、それに対してフィードバックしています。毎回のレポートによる改善の方が、学生たちへの細やかな対応が可能です。

♪ COFFEE BREAK ♪

大人数授業で、学生との対話促進を試みている先生にお話を伺いました（・▽・）

履修者300人程度の大人数授業で、対話形式の双方向授業を試みました。この授業では、まず学生に対話形式で双方向に授業を行うことを説明し、事前に、授業中は質問が自由にできること、また指名されたとしても緊張しなくてもよいこと、間違ってもよいことなどを伝えました。毎回、授業の開始直前から開始後10分以内に、各自名前を書いてもらった出席簿を作成し、授業の中盤から後半にかけて、8名程度の学生を無作為に指名し、授業の内容を質問したり、コメントをもらったりしました。

このような授業形式について、学生からは「緊張感をもって授業に取り組むことができる」「授業の意欲が高まる」「考えながら授業を受けることができる」等の感想を得ています。しかし、質問に対して自ら手を挙げて応える学生がいらないため指名という方法を取らざるを得ない、参加の度合いを評価し成績に反映させることが難しい、教室のタイプによってやりにくい、授業の速度が遅くなるなど、いくつか課題もあり模索を続けています。



学生—教員—職員間の対話促進

～学生FDスタッフ燦を中心とした「共創」風土の醸成～

京都産業大学の学生FDスタッフ燦（SAN）は、平成23年の発足以来、「京都産業大学をみんなで協力して創っていこう！」という思いから、自ら企画・運営して、学生・教員・職員の三者が互いに意見を交わし合う『京産共創』プロジェクトを開催しています。

平成25年11月26日に開催された『京産共創』プロジェクトⅢでは、例年を上回る138名の学生・教員・職員が参加し、大学での「学び」と「時間」について話し合う「しゃべり場」が、グループに分かれて行われました。

「もし単位がなければ、どのような授業を受けるのか？」のテーマでは、授業の選択で重視する要因に、授業の面白さや、楽しさ、内容への興味があげられる一方、「興味がない授業でも学びから得たものがこれからの将来につながることはある」など、参加者の立場や経験によって異なる意見が出され、参加者からは「それぞれ納得するものがあり、議論を重ねていくうちに互いの理解が深まった」「話し合いが盛り上がり、得るものが大きかった」「次回も参加したい」などの感想や反響が多数寄せられました。学生FDスタッフ燦によるこれらの活動は、大学を構成する三者が共に、大学の「教育の改善」について意欲的に語り、一歩を踏み出す契機となっています。

『京産共創』プロジェクトⅢで出された意見などの内容は、学生FDスタッフ燦が集計・分析を行い、さらに多くの学生・教員・職員と共有をはかるために『データブック』や報告書にまとめて、学内外へ発信していきます。

平成25年度 学生FDスタッフ燦の活動

- 5月 立命館大学 学生FDスタッフとの交流会（於：立命館大学）
- 8月 燦夏宿泊（於：京都産業大学松の浦セミナーハウス）
- 8月 「学生FDサミット2013夏」参加（於：立命館大学）
分科会主催「それでも僕は考えたい 学生FDへの『思い』」
ポスター発表「学生FDスタッフ燦(SAN)活動紹介」
- 9月 「第3回高等教育開発フォーラム」参加（主催：高等教育開発協会）
- 9月 「第9回教育改善学生交流 i*see2013 in 岡山」参加（於：岡山大学）
- 11月 「『京産共創』プロジェクトⅢ」開催（於：京都産業大学）
- 12月 「第5回学生FDのWA!!!!!!」参加（於：追手門学院大学）
- 2月 「第19回FDフォーラム」（於：龍谷大学）
ポスター発表予定「学生FDスタッフ燦が実施したイベントの成果・課題」



「しゃべり場」で共に議論をかわす
学生・教員・職員



驚くほどたくさんの意見が・・・



学生FDスタッフ燦のメンバー
約40名が活躍しています

学部長等—教育支援研究開発センター間の対話促進

～「学部まわり」を通じた学部のFD活動支援～

教育支援研究開発センターでは、センター教職員が各学部等を訪れ、学部執行部とざくばらんに意見交換を行う「学部まわり」を平成22年度から実施しています。これは、各学部等が抱える課題、高等教育の政策動向、それに伴うFDの施策等について、センターと学部執行部が情報共有や対話を行う取り組みで、8学部1センターを対象に年2～3回程度実施しています。

各学部のトップの考えや教育観に関する「生の声」を収集することで、各学部が抱えている課題、注力したいポイントがより明確に把握できるようになりました。この「学部まわり」は、公式な会議という位置づけではないため、その場で決定すべき事項は一つもありません。教員・職員、そして部門間の枠を超えて「本音」で語り合える場を目指しています。

今後、教育支援研究開発センターでは、継続的に学部との「対話」を行いながら、学部が抱えている課題・ニーズからリサーチ・クエスチョンを立て、データを詳細に分析・フィードバックするといった「教学IR」の機能をより強化し、各学部における教学改革やFD活動をサポートしていきたいと考えています。

障がい学生支援に関するFD/SD

教育支援研究開発センターでは、教育の質の向上を目指して、「対話」をベースにした全学的な FD/SD 活動を展開しています。なかでも近年重点課題として継続して取り組んでいるのが、障がい学生支援に関するFD/SDです。障がい学生を支援する教員・職員、そして支援を受ける学生の声など、現場の声の共有を学内ではかっています。

平成 25 年度の第 3 回全学 FD/SD 研修会は、公開研修会として開催し、共有の場を学外へも広げていく予定です。

◆平成 24 年度第 1 回全学 FD/SD 研修会（平成 24 年 5 月）

『発達障害のある大学生の支援について』

- ・高橋 知音 氏（信州大学教育学部教授）による講演
～発達障害の基礎知識、授業や成績評価方法など具体的な支援について～

『障がい学生を組織的に支えるために～教員・職員・学生のネットワーク形成を目指して』

- ・本学聴覚障がい学生と教職員によるパネルディスカッション

「教室で学生は・・・」

◆平成 25 年度第 1 回全学 FD/SD 研修会（平成 25 年 9 月）

『京都産業大学における障がい学生支援の現状と課題』

- ・本学ボランティアセンター職員による講演
～「発達障害者支援法」をはじめとする法整備状況と本学の受入れ状況について～
- ・ワークショップ（現場教職員による事例報告と具体的な支援の工夫と課題）

「支援する教職員は・・・」

◆平成 25 年度第 3 回全学 FD/SD 研修会（予定） New!!

『今、大学が求められていること

——障害者差別解消法施行を見据えて』

- ・殿岡 翼 氏（全国障害学生支援センター代表）による公開講演
- ・本学で学ぶ障害のある学生たちを交えての公開座談会

日時/場所：平成 26 年 2 月 19 日（水）10：00～12：15/図書館ホール

参加申し込み受付中（申込期限 2 月 12 日）下記アドレスへメールにてご連絡ください。

Mail：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp

①お名前②所属③職制等（教員・職員・学生・その他）④連絡先メールアドレス⑤必要な配慮等

これから求められる

「合理的配慮」とは？

開催済みの研修会についての詳細は HP にアップしています。

◆その他こんな試みも・・・

佐藤賢一副センター長（総合生命科学部教授）がボランティアセンター「障がい学生支援サポート養成講座」に参加しました！

教員によるボランティアセンターインターンシップとは

学内教職員への障がい学生支援に対する理解啓発のために実際にサポート活動に参加してもらい、その体験を共有することを目的とし、養成講座への参加やサポート活動・学生への聞き取りを行いました。

佐藤副センター長は養成講座に参加したのち、2週間の授業でポイントメイクとパソコンメイクの実地研修を体験しました。今後も障がい学生支援に関して理解を深め、教育支援研究開発センターとして何ができるのか考えていくための良い機会となりました。

青木慎太郎先生の「現代社会と福祉 B」に2週間続けて入らせてもらいました。PC テイクのノウハウにくわえ、気持ちを集中して授業に臨むためには心身の充実がとても大事であることを改めて学ぶことができました。

■平成 25 年度 教育支援研究開発センター主催研修会（予定含）

第 1 回全学 FDSD 研修会	9 月	「京都産業大学における障がい学生支援の現状と課題」
第 2 回全学 FDSD 研修会	12 月	「ゼミ・研究室活動の活性化一名古屋大学での取組を例に一」
第 3 回全学 FDSD 研修会	2 月予定	「今、大学が求められていること—障害者差別解消法施行を見据えて」
第 4 回全学 FDSD 研修会	3 月予定	「英語論文の書き方（社会科学系）」（仮）
第 5 回全学 FDSD 研修会	3 月予定	「平成 25 年度全学学習活動実態調査・結果報告」（仮）

■新任教員研修会

第 1 回新任教員研修会	4 月	「京都産業大学の教育の特色」「若手教員による実践報告」
第 2 回新任教員研修会	5 月	「教員—学生間の授業に関する対話シート」体験談

■授業アンケート（2 種類）

教員—学生間の対話シート	春学期・秋学期	※第 6 週目までに実施
学習成果実感調査	春学期・秋学期	※第 14～15 週目に実施

■その他（学部による公開授業＆ワークショップ 高等教育関連学会等への参加・発表 学生 FD スタッフの支援 高等教育に関するイベント等）

『CERADES News』Vol.1 平成 26 年 2 月発行

編集/発行 京都産業大学教育支援研究開発センター 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

Tel：(075)705-1729 Email：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp

http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/

京都産業大学

学生 FD スタッフ燦

マスコットキャラクター SUN ちゃん

